

東京天台

平成十八年
春彼岸号

発行所
天台宗東京教区

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481
杜多道雄



国宝(伝教大師)最澄像 一乗寺

天台の国宝展

最澄と天台の国宝

天台宗開宗1200年記念特別展

平成18年3月28日(火)～5月7日(日)

東京国立博物館平成館(上野公園)



国宝重文一五〇余

西に京の都、東に琵琶湖を望む世界文化遺産「比叡山延暦寺」。八〇六年(延暦二十五年)天台宗はこの地で始まった。宗祖、伝教大師最澄上人は、身分の差なく、仏教はすべての人々を救うと説き、比叡山延

倉時代には、比叡山に学んだ僧から、法然(浄土宗)、栄西(臨濟宗)、道元(曹洞宗)、親鸞(浄土真宗)、日蓮(日蓮宗)ら開祖

が誕生し、天台宗は日本仏教の母なる存在として、大きな役割を果たしてきた。本展では全国の天台宗関係寺院に伝わる代表的な文化財を一堂に展示し、法華経、浄土信仰から密教、山王神道にいたる日本天台ならではの幅の広い信仰が育んだ美の世界を紹介する。また、開宗一二〇〇年を記念し上野寛永寺の秘仏薬師如来像(重要文化財)をはじめとする本尊仏の寺外での初公開が実現される。出品点数一六六件。

うち国宝三十一件、重要文化財一〇〇件。量、質ともにまさに空前の大展覧会といえるであろう。
(当展パンフレットより)

最澄は「国宝」とは何物ぞ」と問いかけて、「人」とその答えを著している。鎌

最澄上人が死を賭して艱難の末に中国天台山上に渡り、正式に釈尊の教えを伝える師より天台の根本の教えを受けて帰朝したのは八〇四年。そして「己を忘れて他を利する」という法華経の教えの尊さ、その実践の心構えとしての円頓戒の重要さ、一隅を照らす人材を養成することの大切さを朝廷に訴え、正式に日本天台宗として認められたのが八〇六年であった。以来今年二〇〇六年は開宗一二〇〇年の記念すべき年にあたる。
当展に展示される仏像、仏画、文書、全てのものに、法華経の精神を広めたいという最澄上人の願いが込められている。是非、多くの皆さまに当展をご覧いただき、仏教美術と伝教大師最澄上人のご精神に触れていただきたい。
(3頁下に会場案内図)

生活に生きる仏教

■南無■

宗祖根本伝教大師福寿金剛と唱えます。

前回、お仏壇のテレビコマーシャルで「おててのしわとしわを合わせて幸せ、なむ」と言うコマーシャルの話から合掌の意味についてお話ししました。

それぞれ「わたしは阿弥陀仏に帰依します」、「わたしは天台宗を開かれた伝教大師最澄さまに帰依します」という意味です。

「南無」とは、心から深く信じ、敬い、頼りとする場合に唱えることばなのです。

この「なむ」とは「南無」と書きます。「南」や「無」という漢字からは意味がわかりません。合掌が仏教発祥の地インド古来からの礼法に由来しているように、「南無」もインドのことばから来ています。サンスクリット語の「ナマス (namas)」、あるいは「ナモ (namo)」の音に漢字を写して「南無」と書いたのです。

普通、「ナマス」は帰依とか帰命と漢訳されます。

法要で「南無阿弥陀仏」とお念仏を唱えたり、天台宗の宗祖、伝教大師の御名を「南無

私たちには、あわただしく流れる日常生活の中で、どうしても自分の中に、さまざま

悩みや苦しみ、あるいは怒りやおごりを抱え込んでしまします。そんなとき、仏壇の前で、また菩提寺の仏様の前で手を合わせ「南無」と口に出して、頭を下げ、自分を投げ出してみる。それは、おごり高ぶった自分を無に帰すことです。怒りに震える心を落ち着けることです。落ち込んだり不安をかかえた弱い自分を相手に預けることです。

さて、現代のインドでのあいさつは、ヒンディー語で「ナマス・テー」といいます。この「ナマス」も「南無」と同じで、「テー」はあなたです。ですから「ナマス・テー」は「あなたを敬います」という意味になります。お互いに合掌しながら「あなたを敬います」とあいさつを交わすというの、なかなか素晴らしいことだと思いませんか。



健康のためにウォーキングをしているが、幅のない歩道を歩いていると向こうから父子らしい自転車が来る。すれ違いが難しいので車道に降りてやり過ごす。小学一年生くらいの子が「ありがとっ」と元気よく通り過ぎる。思わず微笑むと、続いて若い父親が「すみませーん」と言っ通り過ぎていった。



へ出て「いつてらっしやい」「おかえり」「こんにちは」と声をかけるのだ。子供たちも始めはとまどう。しかし三回、四回となるともう顔馴染みになり安心して声を返してくれる。「何か面白いことがあったの？」と少々話しが発展する。犯行にくい状況を作ることが大切だと犯罪心理学の学者は言う。誰か人の眼がある、たった一人の眼であつても犯行の歯止めになるのである。国の宝を守るために地域のこうした運動に是非協力していきたい。

ウォーキングで挨拶の声をかけるが、ほとんどの人は声は返してくれるものの、向こう様からということは滅多にない。アメリカの人などは知らない人にも気軽に声をかけるが、見習うべき良い習慣だと思う。小さな子供たちを犯罪から守ろうと全国的に声かけ運動が拡がりつつある。子供たちの登下校時に時間の余裕があるおじさんおばさんが表



布施行

住職随想

般には中々真似のできない尊い布施行であった。

そのようなことが何年か続いたある晴れた日のこと。その老人の居宅(?)の傍にバトカーが停車して警官の動きがあった。通りすがりに彼の住まいを覗いてみると、そこには安らかなほほえみをたたえた老人の死に顔があった。どのような波瀾万丈の人生を送ったかは誰も知らない。しかし、少なくとも彼が如何に充実した晩年を過ごしたか、その満ち足りた大往生の姿からは容易に想像することができた。

もうかれこれ二十年近く前のことであろうか、自坊の傍の空き地の一角に暮らす八十前後の路上生活者がいた。白いひげを生やし好爺爺の感じであったが、顔見知りの我々に出会うと、必ず直立不動でニコニコしながら挙手の礼をするのが常であった。昼間は布団にくるまって寝ていることが多かったようだが、夜になると周辺で活動を開始する。深夜、自動車の騒音に交じってガラガラと物を引きずる音に、家の外を見ると暗闇の中でこの老人がダンボールに紐をつけて拾ったゴミを中に入れてはダンボールを引きずって歩いていた。こんな生活であったが、冬になるとまた、きまって拍子木を叩いて「火の用心」を繰り返しながら近所を廻る。人目につかない時間帯に黙々と奉仕に励む、一

本年は宗祖伝教大師が天台宗を開かれて一千二百年という記念すべき年に当たる。宗祖大師の遺された願文の中に「施す者は天に生まれ、受くる者は獄に入る」とある。施しとは思いやりのある暖かい心で、人のために尽くしてその報いを求めない心である。宗徒としてあらためて大師のご遺徳を讃仰すると共にこのご精神を現代に生かしていきたいものである。

東京教区から

おしらせ

◎天台声明公演

● 四月七日(金) 午後六時
『最澄と天台の国宝』 展会場の東京国立博物館前庭にて、天台声明『大法百光明供』の公演があります。
声明とは、古の美しい曲調にのせてお経や偈頌(詩歌形式の短い経文)を歌うもので法要の一形式です。国宝展と併せてこの伝統ある荘厳な天台声明をぜひご鑑賞ください。

● 四月十八日(火) 午後一時半
● 会場・五反田ユーポート
瀬戸内寂聴師の講演と共に、こちらでも同じ声明公演があります。

◎授戒会

平成十五年度から開催されている天台宗開宗一千二百年記念授戒会では、すでに千余名の檀信徒の方々が戒を授かり、充実した生活

の指針を得られています。

この機会によりご縁を結ばれ、心の支えを得ていただきますように。

安養寺授戒会

● 六月二十四日(土)
● 会場・府中市安養寺

今回は教区第八部の方が中心ですが、他部の檀信徒までご希望される方はお早めに菩提寺へお申し込みください。

◎一隅を照らす運動 東京大会

● 六月十日(土) 午後一時
● 九段会館大ホール
天台声明法要と講演『いのちの輝き』

今回の講演は、聖路加国際病院理事長の日野原重明氏です。氏は九十歳を越えてなお元氣はつらつと、診療に講演に著作にと毎日活躍されています。氏の言われる「七十は鼻たれ小僧」の私たちには、氏の日常生活、健康法、考え方や心の在り方のお話は大きな力になることでしょう。ぜひ皆様お誘い合わせてご参加ください。(入場無料)

以上、それぞれ詳しくは菩提寺にお問い合わせください。

ご案内

東京国立博物館 平成館 [上野公園]

至池袋 当谷駅
至池袋 蕨駅
至池袋 根津駅
至池袋 根津駅より徒歩15分
至池袋 根津駅より徒歩10分

交通: JR上野駅公園口・当谷駅より徒歩10分
京成電鉄京成上野駅、東京メトロ上野駅、根津駅より徒歩15分

お問い合わせ 案内 **03-5777-8600** (ハローダイヤル)

東京国立博物館ホームページ <http://www.tnm.jp/>
読売新聞ホームページ <http://info.yomiuri.co.jp/event/>

■観覧料＝一般1300円(1100/1000)、大学・高校生900円(700/600)
小・中学生400(300/200)

※()内は前売/団体(20名以上)料金。
※障害者とその介護者1名は無料です。入館の際障害者手帳などをご提示ください。
※前売り券は2006年2月2日から、首都圏の主要プレイガイドで発売中

高井戸のお不動さん 吉祥院



吉祥院 本堂



十一面観音像

京王井の頭線高井戸駅を下りてすぐ環八を南へ五分ほど歩くと吉祥院参道入口、右へ百メートルほどで山門をくぐると、もう環八の騒音も届かない寂かな境内である。



寛永寺拝領の大厨子

今は高井戸のお不動さんとして、毎月二十八日の縁日はもとより、一月十五日の護摩供や二月三日の節分会大護摩には近隣

吉祥院はその昔、霊岸島大河端町にあり、羽黒山の末寺であったが、その後東叡山寛永寺末、谷中天王寺末と移り、天明七年には老中松平越中守定信の改革祈願寺となり大寺席となった。しかし、明治の廃藩置県により廃寺同様になったが、篤信の居士並木卓善氏が自らの地所を寄進し、明治十三年現高井戸の地に再興された。本堂は寛永寺の慈眼堂を移築したもので堂内にはそれを表すように寛永寺拝領とある三メートルはあろうかという大厨子がある。

から多くの信者さんが詣でる。節分会には地元の主婦や世話人、信徒の方々が手伝い数百人分の精進料理が振る舞われるということである。

天台の寺めぐり

21

世田谷のお不動さん

本堂左右の築山には不動十六童子及び八大童子が祀られ、境内右奥には丈六の立派な石造りの十一面観音が祀られ、参詣の人々に慈眼を投げかけている。

目青不動 教學院



目青不動

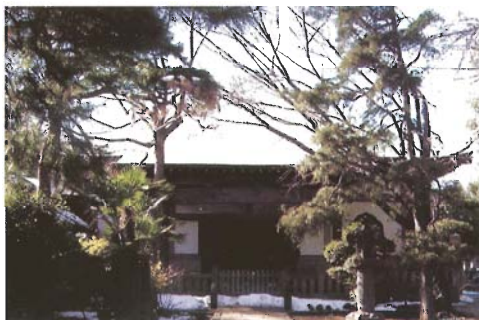
東急世田谷線三軒茶屋駅を降りると隣接してキャロットタワーという高層ビルがある。26階の展望台に上がると、東京都が一望、西は丹沢山系から富士山、東は遙か筑波山まで素晴らしい眺望である。そしてすぐ真下に眼を落とすと教學院の境内だ。タワーの北側、駅から徒歩三分もない。

三合山教學院は応長年間(二二二二)の創建で、江戸城内紅葉山にあつたが、その後麴町貝塚、赤坂三分坂、青山南町へ、そして明治42



目青不動を祀る不動堂

年に三軒茶屋へ移り現在に至っている。



教學院 本堂

境内正面に阿弥陀さまを祀る本堂、右に不動堂が建つ。不動堂のご本尊は、江戸五色不動(目黒、目白、目赤、目黄、目青)のひとつ、慈覚大師御作と伝えられる目青不動であるが、秘仏なのでお前立ちに威厳のある大きな不動尊が祀られている。関東三十六不動の第十六番札所ということもあって、平日でも、散歩の途中という近所の若い男女や、遠く千葉から巡拝の途中という夫婦など参詣が絶えない。